

令和元年度 大田区立梅田小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

○児童数 868名(令和2年2月20日現在) ○学級数 26学級 ○教職員数 48(校長1 副校長1 教員33 養護教諭2 専門員1 栄養士1 講師4 事務2 副校長補佐1 主事2)

○平成31(令和元)年度 校内研究 研究主題「一人一人が運動を楽しみ、主体的に課題解決をめざす体育学習」 体育の校内研究7年目 体育スタンダードの定着 ○ICT機器・学校図書館の有効活用 ○プログラミング教育の推進

○学年朝会の実施 ○「語先語礼」の励行 ○全校朝会での校歌斉唱 ○校長との会食 ○校内での俳句表彰 ○ロング休み ○低学年・高学年別体育朝会/音楽朝会 ○5分間マラソン ○体育的活動「梅田ハッピータイム」

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 生きる未来 社会育を 創造的に 生	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 プログラミング教育の推進を図る。	「学んだことや考えたことを友達に伝えることができた」と回答した児童の割合(児童アンケート860人)	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 60%以上 1: 60%未満	○外国語活動の指導時間数が増加したが、外国語教育指導員と協力して指導にあたる。 →外国語科に向けて、評価の在り方の確認を行う。 ○ICT機器は、ほとんどの教員が毎日使用している。 →タブレット端末を計画的に効率よく使用する。 ○体力テストの結果を踏まえ、体育授業を実践する。投力に課題あったので、「投げる」運動を意図的に取り入れた。 ○プログラミング教育についての校内研修を複数回実施し、教員の理解を深める。 →①ソフトを活用した授業②情報モラル教育③アンブレグドなプログラミング的思考を育む授業 を実践する。	・プログラミング的指導とは何か、明確に規定する必要がある。そうしなければ実践的な指導などできない。 ・取組評価と成果評価がほぼ等しい結果だったので、Bとしました。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 学校図書館の利活用を推進する。	「話をしっかり聞いて学習できた」と回答した児童の割合(児童アンケート860人)	4: 98%以上 3: 95%以上 2: 90%以上 1: 90%未満	○ドリルやテスト、日々の学習を通して、児童のわからないところを明らかにし、わかるように個別指導を進めていく。 →土曜日や水曜日の補習教室に参加させたり、放課後に残って学習させたりして、定着を図っている。 ○児童の理解度に合わせた補充プリントや発展プリントを配布し、家庭でも学習する習慣をつけさせる。 ○算数習熟度別少人数指導をし、児童の理解度に合わせた教材を用意し習熟させていく。 →ゆとり進めるクラスは、できるだけ少人数にして指導をする。進度の速いクラスには、なぜそうなったのかなどの過程を説明できる能力を育成する。 ○学校図書館での読書活動、調べ学習を推進する。 →環境だけでなく、各教科での指導方法を工夫する。	・個々の児童の理解度、習熟度を把握して、その子どもに合った指導方法を定めて学習させていることは大変良い。 ・あえて厳しいこととしました。取組評価に対して成果評価が低かったこともありましたが、「目標」や「取組内容」の充実に対して成果指標(アンケート結果が)1つで割合のハードルも高いです。評価の仕方が難しいことが分かります。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 「子供たちの規範意識を育むために」を参考に、規範意識(ルール、マナー、モラル)の向上のための取組を実施する。	「学校が楽しい」と回答した児童の割合(児童アンケート860人)	4: 98%以上 3: 95%以上 2: 90%以上 1: 90%未満	○学校生活調査の結果をもとに、まずは気になる児童(学校生活アンケートを行い、ストレスを表す★がついている児童)について面談をしていく。5年生は、スクールカウンセラーによる全員面接を一学期中に実施した。 →一歩の様子だけでなく、アンケートを通して内面が見えてくることもある。新学期などは、特に注意し、子どもからの信号を見逃さず、声をかけている。 ○いじめ問題、不登校については、特別支援委員会を中心に、情報の共有化を図り、学校全体として取り組んでいる。 →不登校(30日以上欠席している)児童はいない。担任だけでなく、スクールカウンセラーと連絡をとれるようはたらきかけている。 ○スクールカウンセラーが2名配置されている。保護者からの相談だけでなく、教育相談室の開放を行い、児童が休み時間に気軽に相談できる環境を整えた。授業参観もこまめに行い、気になる児童の発見や気になる児童への指導法など専門家の立場からも指導をしている。	・学校が楽しいという児童が9割以上いることは大変結構である。いじめ問題、不登校については子どもからの信号を見逃さないことが大切で、学校のことに携わる全ての方々の力を借りて取り組んでいることは良い。 ・評価が難しい「目標」に対して、成果指標が「学校が楽しい」ですので、プラン2と同様、評価の仕方が大変難しい項目だと思いました。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいつつ「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 校内研究の充実を図る。体育授業を中心とした研究活動の推進を実施する。	「外で元気よく遊ぶことができた」と回答した児童の割合(児童アンケート860人)	4: 98%以上 3: 95%以上 2: 90%以上 1: 90%未満	○早寝・早起き・朝ごはん月間には、学校独自のカードを配布し、家庭と協力して、子供たちに大切さを知らせていく。また、「朝ストレッチ」「マラソン週間」を実施し、体を動かすことの気持ちよさに気付かせている。 →高学年児童の外遊びに対する意欲が低下傾向なので、教員と一緒に遊ぶが、楽しめる遊びを紹介する等の取り組みを行う。 ○食育の授業を実践し、食品ロスについて考えるきっかけになった。 →継続して指導していかないと意識させることは難しい。 ○自分たちが考えたメニューが実際に給食に反映され、食に対する意欲が多いに高まっている。 ○体育科の研究を通して、主体的に課題解決をめざす授業を展開することができた。	・受験を控える高学年児童の体を動かす機会を多く作ることが大切だ。外遊びにこだわることなく、授業の間に行うストレッチや体操など、どこでもできる運動に努めたら良いと思う。 ・91%の評価にもかかわらず、「2」となっており、取組評価「4」「3」と差が目立ってしまったのは残念です。梅田小の体力向上への取組が正しく評価される指標や自己評価方法になってほしいと思いました。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 社会科の授業公開を実施し、社会科の指導教諭を活用した教員の指導力の向上を図る。	学校公開時「保護者アンケート」における授業評価で肯定意見の割合(保護者アンケート465人)	4: 98%以上 3: 95%以上 2: 90%以上 1: 90%未満	○保護者アンケート、授業改善プランをもとに、学級ごとの実態に合わせた授業改善に取り組んだ。 ○区内の研究発表に一人1回以上参加し、自校に周知し、学んだことを授業に生かす。また、研究授業や模範授業の内容を還元し、教員のスキルアップにつなげていく。 ○校内OJTとして教科や指導の在り方などの情報を共有することができた。 ○社会科の指導教諭の授業を全員が参観した。 →自分の学年につながる内容についての質疑応答や模範授業を参観する。	・校内、校外で行われる研究や模範授業を生かし、常に向上を図ることによりスキルアップをはかることが良い結果につながっている。 ・「魅力ある教育環境づくり」について、先生方と保護者の評価が同水準にあることは素晴らしいと思いました。
プラン6 学校・家庭・地域育が一体となる	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 地域の中学校との連携を図り、授業参観や部活体験など、児童生徒が交流する機会を設ける。	保護者アンケートによる学校満足度の割合(保護者アンケート465人)	4: 98%以上 3: 95%以上 2: 90%以上 1: 90%未満	○ホームページでは、行事について発信している。今後も、タイムリーな話題を掲載し梅田小学校の特徴をアピールしていく。 ○スクールサポートうめだ(学校支援地域本部)は、夏のわくわくスクールだけでなく、様々なお手伝いなど活動をサポートしてもらっている。 ○中学校と生活指導・体力向上などを中心に、共通の指導ができるよう連携を図っている。 ○おたつ子広場、児童館と月に一回、情報交換会を行い、子どもの居場所作りを推進している。	・ホームページの内容は常に更新し、その時の情報を配信している点は評価できる。 ・学校から保護者や地域に対する情報発信に対しての評価が高いということは、保護者が安心して通わせられる(満足度が高い)ということですので、プラン5同様素晴らしいと思いました。